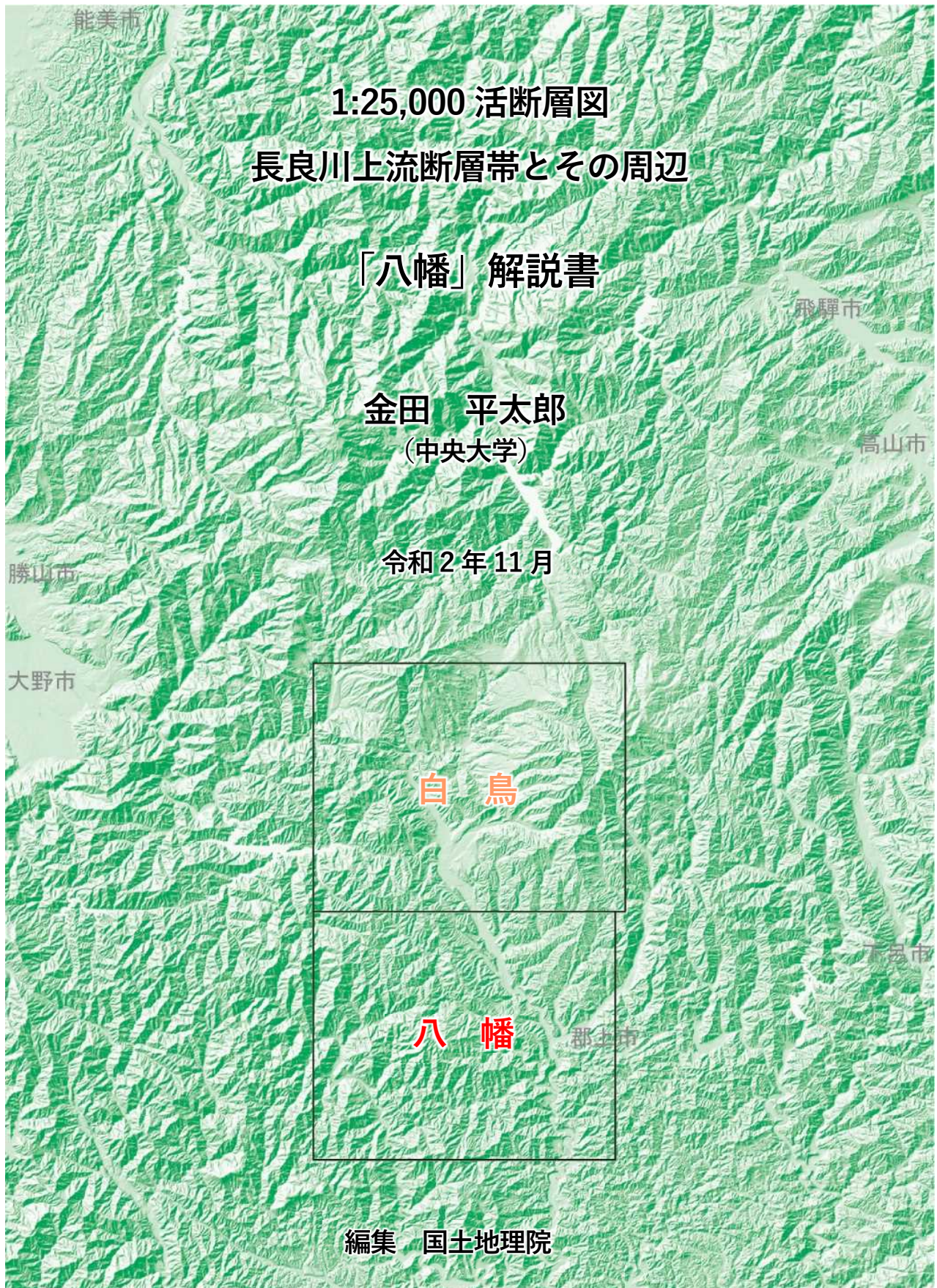
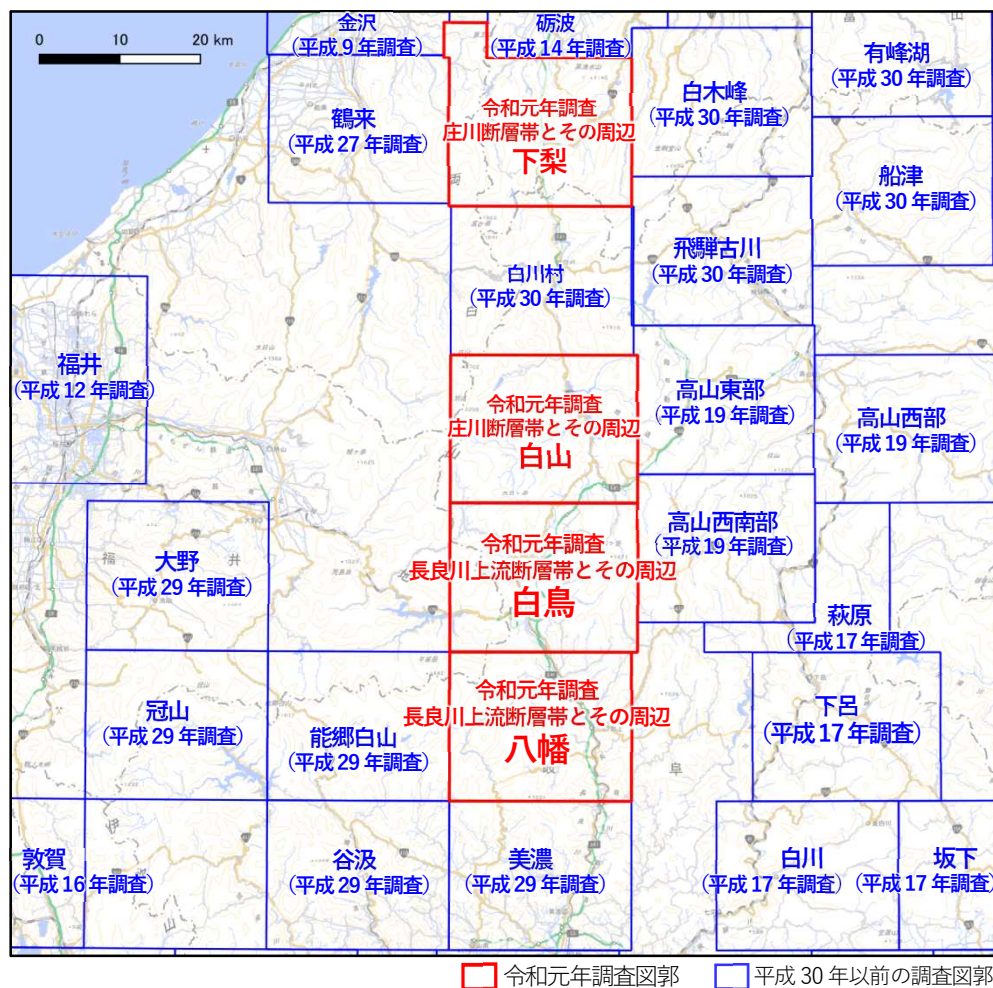




目 次

1:25,000活断層図 長良川上流断層帯とその周辺「八幡」解説書

1. 八幡断層・	2
2. オリ谷断層・	3
3. 乙狩川断層・	4
4. 郡上市三田付近の断層・	4
5. 郡上市川佐から八幡町柳町に至る断層・	4
6. 高賀山東方の断層・	5
7. 山県市三尾付近の断層・	5
8. 関市新谷付近の断層・	6
9. 滝波山南東の断層・	6
10. 大野市野々小屋谷付近の断層・	6
引用文献・	7
使用空中写真，使用航空レーザ測量データ及び検討委員会等・	7
付図（断層索引図）・	9



1:25,000 活断層図「八幡」作成位置図

1:25,000 活断層図 長良川上流断層帯とその周辺「八幡」解説書

長良川上流断層帯は、地震調査研究推進本部地震調査委員会（2004）によると、岐阜県郡上市に分布する断層帯で、八幡断層、二日町断層、那留断層及び大野断層から構成される。本断層帯の長さは約 29 km で、北北西－南南東方向に延びる。

本断層帯の主部は、北北西－南南東に連なって延びる二日町断層と八幡断層からなり、両者は右ステップをなして、一部でオーバーラップする。また、八幡断層北部の東側には大野断層や那留断層等が分布し、全体として幅 4－5 km の断層帯を構成している。

本図には、長良川上流断層帯を構成する八幡断層と、オリ谷断層、乙狩川断層及びその他の推定活断層が記載されている。以下に、各断層の概要と判読した根拠を記載する（下記の断層ごとの番号及び記号は、巻末の付図（断層索引図）に記載した番号及び記号に対応）。

1. 八幡断層

- ・走向 : 北西－南東
 - ・長さ : 約 19 km
 - ・断層種別 : 活断層（左横ずれ、縦ずれを含む）、一部推定活断層
- （※上記の各諸元については、本図内における計測及び確認結果である）

（1）概要

八幡断層は、1:25,000 活断層図「白鳥」（熊原ほか、2020）図葉の岐阜県郡上市白鳥町二日町の西から本図の同市口洞の南（図郭東端）まで、北西－南東方向に延びる活断層である。

本図には、郡上市乙原（図郭北端）から同市口洞の南（図郭東端）まで、北西－南東方向に延びる長さ約 19 km の区間が記載されている。左横ずれ（一部については右横ずれ）及び縦ずれの変位を伴う活断層で、郡上市八幡町城南町の東から、東南東ないし東方向に数条の活断層が分岐する。

（2）判読根拠

八幡断層の主な地点ごとの判読根拠は、次のとおりである。

- 1a : 多数の河谷に系統的な左屈曲が認められるとともに、今回の航空レーザー測量データを用いた地形判読によって、山地斜面や段丘面を切る明瞭な低断層崖が断続的に確認されたことから、活断層と判断した。郡上市大和町落部の南方では、新期の堆積物を切る断層の露頭が確認されており（脇田、1984）、その約 300 m 北で実施されたトレンチ調査においても、完新世の堆積物を変位させる断層が確認され、この断層の活動履歴が推定されている（産業技術総合研究所、2013）。
- 1b : 活断層と判断される 1a からわずかに右ステップする形で河谷・尾根の左屈曲や鞍部が続くとともに、今回の航空レーザー測量データを用いた地形判読によって、一部区間にわずかな鞍部の連続が確認されたことから、活断層と判断した。
- 1c : 1b から東に分岐する形で河谷の左屈曲や鞍部が続くことから、活断層と判断した。本

図で新たに確認した活断層区間である。

1d： 1b から南東に分岐する形で河谷・尾根の左屈曲や鞍部が続くことから、活断層と判断した。

1e： 1b から東に分岐する形で逆向き低断層崖状の地形や鞍部、分離丘状の地形が認められるが、連続性に乏しく、横ずれを示唆する地形が認められないことや、山体重力変形や差別侵食による地形である可能性も考えられることから、推定活断層と判断した。

1f： 1c からわずかに右ステップする形で鞍部列が続き、本図の範囲外も含めて多数の河谷に系統的な右屈曲が認められることから、活断層と判断した。横ずれの方向は八幡断層の他の区間とは逆の右横ずれであり、これらの区間が活動した際に同時に活動する共役断層の可能性はある。本図で新たに確認した活断層区間である。

2. オリ^{たに}谷断層

- ・走向： 北東－南西
- ・長さ： 約 11 km
- ・断層種別： 活断層（右横ずれ及び一部縦ずれを含む）、一部推定活断層
（※上記の各諸元については、本図内における計測及び確認結果である）

（1）概要

オリ谷断層は、本図の岐阜県郡上市上会津付近^{かみあいづ}の南から 1:25,000 活断層図「能郷白山」（金田ほか，2018）（以下、「能郷白山」という）図葉の同県山^{しらいわ}口市白岩付近まで、北東－南西方向に延びる活断層である。

本図には、郡上市上会津付近から同県関市のオリ谷（図郭西端）まで、北東－南西方向に延びる長さ約 11 km の区間が記載されている。右横ずれ及び一部に縦ずれの変位を含み、関市板取^{いたどり}～杉原^{すぎはら}周辺では、複数の断層線が複雑に併走する。

（2）判読根拠

オリ谷断層の主な地点ごとの判読根拠は、次のとおりである。

2a： 河谷に系統的な右屈曲が認められるとともに、山地斜面や段丘面を切る明瞭な低断層崖が断続的に確認されることから、活断層と判断した。本断層線の西側延長部（「能郷白山」図葉内）では活断層露頭も報告されている。

2b： 板取川左岸の南北方向の山麓線に沿って多くの河谷に右屈曲が認められるとともに、その断層トレースは活断層と判断される 2a に合流するような配置をとることから活断層と判断した。南半部は本図で新たに確認した活断層区間である（2b-1）。

2c： 今回の航空レーザー測量データを用いた地形判読によって、山地斜面及び段丘面を切断する明瞭な低断層崖が確認されるときに、その延長上の一部には河谷の右屈曲も認められたことから、活断層と判断した。本図で新たに確認した活断層区間である。

2d： 2b からわずかに左ステップする形で河谷の右屈曲が続くことから、活断層と判断した。

2e： 2d から北東に分岐する形で河谷の右屈曲が複数認められるが、連続性に乏しく、また下流方向への屈曲でもあることから、推定活断層と判断した。

3. 乙狩川断層^{おとかりがわ}

- ・走向 : 北北西－南南東
- ・長さ : 約 0.5 km
- ・断層種別 : 活断層

(※上記の各諸元については、本図内における計測及び確認結果である)

(1) 概要

乙狩川断層は、本図葉の岐阜県関市と郡上市の境界に位置する高賀山^{こうがさん}の西付近から、1:25,000 活断層図「美濃」(杉戸ほか, 2018) (以下, 「美濃」という) 図葉の美濃市上野^{かみの}まで、北北西－南南東方向に延びる活断層である。

本図には、高賀山の西(図郭南端)付近で、北北西－南南東方向に延びる長さ約 0.5 km の区間が記載されている。

(2) 判読根拠

本図南側の「美濃」図葉で認定された活断層の延長上に直線谷及び鞍部が認められる。本図内には、活断層であることを明確に示す地形は認められないが、「美濃」図葉からの連続性を勘案して上記の鞍部付近まで活断層が延びると判断した。

その他の推定活断層としては、郡上市三田^{さんでん}付近の断層、郡上市川佐^{かわさ}から八幡町柳町^{はちまんちょうやなぎまち}に至る断層、高賀山^{こうがさん}東方の断層、山県市三尾^{み、お}付近の断層、関市新谷^{あらたに}付近の断層、滝波山^{たきなみやま}南東の断層、大野市野々小屋^{ののぐやだに}谷付近の断層が記載されている。

4. 郡上市三田^{さんでん}付近の断層

- ・走向 : 東北東－西南西
- ・長さ : 約 3 km
- ・断層種別 : 推定活断層

(1) 概要

岐阜県郡上市三田付近に位置し、東北東－西南西に延びる長さ約 3 km の推定活断層である。

(2) 判読根拠

栗巣川^{くりすがわ}右岸に沿って複数の河谷に右屈曲が認められるが、連続性に乏しく、また下流方向への屈曲でもあることから、推定活断層と判断した。

5. 郡上市川佐^{かわさ}から八幡町柳町^{はちまんちょうやなぎまち}に至る断層

- ・走向 : 北東－南西
- ・長さ : 約 5 km

- ・断層種別 : 推定活断層

(※上記の各諸元については、本図内における計測及び確認結果である)

(1) 概要

岐阜県郡上市川佐の北東(図郭東端)から同市八幡町柳町まで、北東-南西方向に延びる長さ約5 kmの推定活断層である。

(2) 判読根拠

吉田川右岸に沿って複数の河谷に右屈曲が認められるが、系統性に乏しく、また下流方向への屈曲でもあることから、推定活断層と判断した。

6. 高賀山^{こうがさん}東方の断層

- ・走向 : 北西-南東

- ・長さ : 約1 km

- ・断層種別 : 推定活断層

(※上記の各諸元については、本図内における計測及び確認結果である)

(1) 概要

岐阜県郡上市と関市の境界に位置する高賀山の東(図郭南端付近)に位置し、北西-南東方向に延びる長さ約1 kmの推定活断層である。「美濃」図葉の瓢ヶ岳^{ふくべがだけ}北東から釜ヶ滝^{かまがたき}付近に至る断層と連続する。

(2) 判読根拠

本図南側の「美濃」図葉で確認された推定活断層の延長上に鞍部及び地形の傾斜変換線が認められる。本図内には、活断層であることを明確に示す地形は認められないが、「美濃」図葉からの連続性を勘案して上記の傾斜変換線付近まで推定活断層が延びると判断した。

7. 山県市^{みお}三尾付近の断層

- ・走向 : ほぼ南北

- ・長さ : 約1 km

- ・断層種別 : 推定活断層

(※上記の各諸元については、本図内における計測及び確認結果である)

(1) 概要

岐阜県山県市三尾付近(図郭南端^{えんぼら}付近)に位置し、ほぼ南北方向に延びる長さ約1 kmの推定活断層である。「美濃」図葉の同市円原付近の推定活断層と連続する。

(2) 判読根拠

本図南側の「美濃」図葉で確認された推定活断層の延長上に直線谷、鞍部及び地形の傾斜変換線が認められる。本図内には、活断層であることを明確に示す地形は認められないが、「美濃」図葉からの連続性を勘案して上記の傾斜変換線付近まで推定活断層が延びると判断

した。

8. 関市新谷^{あらたに}付近の断層

- ・走向 : 北東－南西
- ・長さ : 約 2 km
- ・断層種別 : 推定活断層

(1) 概要

岐阜県関市の新谷の上流付近に位置し、北東－南西方向に延びる長さ約 2 km の推定活断層である。

(2) 判読根拠

新谷右岸の鞍部列に沿って河谷の右屈曲が複数認められるが、連続性に乏しく、また下流方向への屈曲でもあることから、推定活断層と判断した。

9. 滝波山^{たきなみやま}南東の断層

- ・走向 : 北東－南西
- ・長さ : 約 1 km
- ・断層種別 : 推定活断層

(1) 概要

岐阜県関市と福井県大野市境界に位置する滝波山の南東に位置し、北東－南西方向に延びる長さ約 1 km の推定活断層である。

(2) 判読根拠

尾根を横切る逆向き低断層崖状の地形及びその延長上に河谷の右屈曲が認められるが、連続性に乏しく、また河谷の屈曲は下流方向でもあることから、推定活断層と判断した。

10. 大野市野々小屋^{ののこやだに}谷付近の断層

- ・走向 : ほぼ東西
- ・長さ : 約 0.5 km
- ・断層種別 : 推定活断層

(※上記の各諸元については、本図内における計測及び確認結果である)

(1) 概要

福井県大野市の野々小屋谷付近に位置し、ほぼ東西方向に延びる長さ約 0.5 km の推定活断層である。「能郷白山」図葉の大野市のカン谷^{きんづか}付近から猿塚^{さるづか}の南側を経て東へ至る推定活断層と連続する。

(2) 判読根拠

本図西側の「能郷白山」図葉で確認された推定活断層の延長上の尾根にわずかながら鞍部

が認められる。本図内には、活断層であることを明確に示す地形は認められないが、「能郷白山」図葉からの連続性を勘案して上記の鞍部付近まで推定活断層が延びると判断した。

(中央大学教授 金田 平太郎)

引用文献

- 地震調査研究推進本部地震調査委員会 (2004) : 長良川上流断層帯の長期評価について. 11p.
https://www.jishin.go.jp/main/chousa/katsudansou_pdf/59_nagara-gawa.pdf (2019 年 12 月 3 日閲覧)
- 金田平太郎・石村大輔・熊原康博・中田 高 (2018) : 1:25,000 活断層図「能郷白山」, 国土地理院.
- 熊原康博・石村大輔・金田平太郎・小山拓志 (2020) : 1:25,000 活断層図「白鳥」, 国土地理院.
- 産業技術総合研究所 (2013) : 長良川上流断層帯の活動性および活動履歴調査. 「活断層の補完調査」成果報告書 No. H24-3, 63p.
- 杉戸信彦・岡田篤正・廣内大助・中田 高・中埜貴元 (2018) : 1:25,000 活断層図「美濃」, 国土地理院.
- 脇田浩二 (1984) : 5 万分の 1 地質図幅「八幡」及び同説明書. 地質調査所, 89p.

使用空中写真, 使用航空レーザ測量データ及び検討委員会等

1) 使用空中写真

撮影計画機関 (種別)	撮影縮尺	地区番号又はコース番号
米軍 (モノクロ)	1/40,000	M1169, M613, M614, M1195A
国土地理院 (カラー)	1/10,000	CCB-75-25, CCB-77-13

2) 使用航空レーザ測量データ

国土地理院が管理する航空レーザ測量データから 1mDEM 及び 2mDEM を作成して使用

3) 全国活断層帯情報整備検討委員会

a. 委員会の開催

- 第 1 回委員会 令和元年 8 月 29 日 (木) 新檜町ビル 7F ビジョンセンター東京駅前
 地域部会 令和元年 10 月 8 日 (火) 新檜町ビル 7F ビジョンセンター東京駅前
 第 2 回委員会 令和元年 12 月 26 日 (木) 新檜町ビル 7F ビジョンセンター東京駅前

b. 長良川上流断層帯とその周辺「八幡」の作成委員 (令和元年度)

図 名	氏 名	所 属
八幡	○ 金田 平太郎	千葉大学准教授 (現在: 中央大学教授)
	熊原 康博	広島大学准教授
	立石 良	富山大学准教授

	中田 高	広島大学名誉教授
--	------	----------

○印は、全体のとりまとめを担当した委員，その他の委員は五十音順

4) 連絡先

国土地理院応用地理部地理情報処理課

〒305－0811 茨城県つくば市北郷1番

電話：029（864）1111（代表）

5) 引用する場合の記載例

a. 図を引用する場合

金田平太郎・熊原康博・立石 良・中田 高（2020）：1:25,000活断層図「八幡」，国土地理院。

b. 解説書を引用する場合

金田平太郎（2020）：1:25,000活断層図 長良川上流断層帯とその周辺「八幡」解説書，国土地理院，9p.

